**２（２）その他，特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付けなど。（※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容）**

**特筆すべき教育活動**

**特筆すべき研究活動**

○　未来医工学治療開発センター

次代の革新的な医療を推進するためのトランスレーショナル・リサーチの実践の場として，大学病院の旧西病棟に全学組織（特定事業組織）として設置した。センターでは，医療材料・医療機器・再生医療・医薬品等に関する基礎研究の成果を臨床応用，その後の企業等へのライセンスアウト等といった実用化まで一貫して総合的に支援する体制を構築するとともに，トランスレーショナル・リサーチを担う人材の育成についても積極的に推進した。

また，センターを中心に先端医療開発特区（スーパー特区）研究に申請し，平成 20 年 11 月に「社会ニーズに応えるオンリーワン・ナンバーワン医療機器創出特区」が採択された。このスーパー特区の提案コンセプトは，医療機器のシーズで①革新的で国際競争力のあり，②社会ニーズとマーケット規模を有し，③知財が確立され，④パートナー企業が存在し，⑤５年以内に治験開始若しくは製品化が見込まれる課題について，優先的に研究開発を推進し，上市を目標とすることとしている。

**特筆すべき社会貢献活動等**

○　高度救命救急センター

宮城県，仙台市からの強い要望に基づき，平成18年10月に高度救命救急センターを東病棟１階に設置した。センターは，仙台市等の他の救命救急医療機関と連携をとりつつ診療機能を分担しながら，先進的高度救命救急医療を実践し，宮城県における救急医療体制の構築に貢献した。また，救急専門医養成するための救急医療・救急医学研鑽の場を構築した。

○　地域医療連携センター

「病・病」，「病・診」連携強化に向けた取り組みとして，平成16年度に院内施設として地域医療連携センターを設置した。他の医療機関からの患者の紹介をスムーズにするための予約システムの運用，退院への早期支援等，適切な医療を提供するために院内及び院外の関係機関（地域の保健・医療・福祉機関）等との密接な、また効果的な連携関係を構築し，地域医療に貢献した。

○　がんセンター

がん医療については，平成18年8月に宮城県がん診療連携拠点病院の指定を受け，院内にがんセンターを設置した。センターは，地域に対して（１）研修事業，（２）ネットワーク事業，（３）院内がん登録事業，（４）がん相談支援事業および（５）普及啓発・情報提供事業を実施している。

センター内に腫瘍評議会，化学療法センター等を設置し，最適な修学的治療方針を患者に提示し，エビデンスを得るための臨床研究を進め，指導的ながん専門医あるいはがん医療に特化したコ・メディカルの育成，および治療成績の公表や啓発活動，相談受付を行っており，地域におけるがん医療の向上に貢献した。

○　東北大学医学部地域医療支援機関

地域の医療機関からの多様な要請に対応するため，これまで各医局単位で対応してきた地域医療の諸問題，特に医師配置に関する要請について，窓口を一本化するために大学病院内に支援機関を設置し，地域の医師不足問題解消に貢献した。

○　宮城県と感染症対策の支援に関する協定の締結

宮城県において重大な感染症発生時には，県に対して予防や蔓延防止のための指導・助言を行うほか，感染症の患者に対応する県立病院等に医師を派遣することを目的に，平成20年9月に，宮城県及び東北大学医学系研究科と三者間で「感染症対策の支援に関する協定」を締結し，県の感染症対策に貢献した。

○　岩手・宮城内陸地震におけるＤＭＡＴの派遣

平成20年6月14日に発生した岩手･宮城内陸地震に東北大学病院ＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）を派遣した。

派遣期間：6月14日～6月15日　派遣チーム：医師３人，看護師等２人